

令和 6 年 3 月 25 日

富山県美術館令和 6 年度展覧会スケジュール および令和 5 年度新収蔵美術品について

富山県美術館にて、令和 6 年度に開催される展覧会のスケジュールをご案内します。
また、新たに取得した収蔵美術品をお知らせします。

1. 令和 6 年度 展覧会スケジュール

富山県美術館では、来る令和 6 年度の展覧会を別紙のスケジュールで開催します。

展覧会年間スケジュール（パンフレット）は、県内の主な文化施設や教育機関に配布します。
また、富山県美術館ホームページにも同様の内容を掲載します。

資料 1. 展覧会年間スケジュール（パンフレット）（PDF：2,077KB）

2. 令和 5 年度取得の新収蔵美術品

令和 5 年度は、美術品の購入と受贈により 15 点の作品を取得しました。これらの作品は、コレクション展や、当館で開催する各種企画展で活用してまいります。

資料 2. 令和 5 年度新収蔵美術品について（PDF：580KB）



富山県美術館
アート&デザイン

2024 → 2025

開館時間・休館日

	利用時間	休館日	料金
美術館	9:30 - 18:00	・毎週水曜日 (祝日除く) ・祝日の翌日 ・年末年始	・コレクション展: 一般300円(240円) ※()内は20人以上の団体料金 ・企画展・展覧会により異なります。 ・企画展観覧料でコレクション展も ご覧いただけます。
オノマトへの屋上	8:00 - 22:00	12月1日～3月15日	
駐車場	8:00 - 22:30		最初の1時間330円 以降30分毎に110円加算。 ※美術館利用の方、2時間無料 (事前精算機をご利用ください。)

※メンテナンスや展示替え作業等のため臨時休館する場合があります。
※季節やイベント等に応じて、臨時開館や延長開館する場合があります。

・次の方は、コレクション展・企画展ともに観覧無料

- 1) 児童、生徒(小・中学生、高校生など)
- 2) 学校教育、社会教育活動としての児童・生徒の引率者(観覧料免除申込書が必要です)
- 3) 各種手帳をお持ちの障がい者の方の観覧
(付き添いは手帳をお持ちの方1人につき1名まで無料)

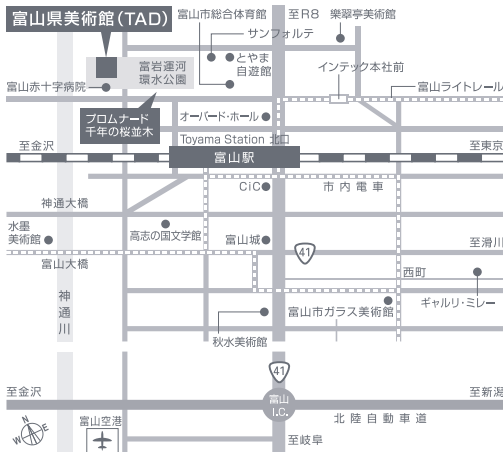
・大学生と70歳以上の方は、コレクション展が観覧無料

(大学生の対象は、大学、大学院、短期大学、高等専門学校(4学年以上)、専修学校(専門課程)、
専修学校(一般課程の19歳以上)、通信制大学、放送大学です)

・詳しくは富山県美術館ホームページでご確認いただくか、美術館へお問い合わせください。
・ご来館の際は、当館ホームページの「入館時のお願い」をご確認ください。

アクセス

- 富山駅北口(あいの風とやま鉄道改札側)から
徒歩約15分 / タクシー約3分
バス: 1番のりばより乗車、「富山県美術館」下車すぐ
- 富山空港より……タクシー: 約20分(約9km)
- 北陸自動車道より……自動車: 約15分(富山I.C.から国道41号経由)



富山県美術館(TAD)

TAD: Toyama Prefectural Museum of Art and Design

※ Toyama Art Design の頭文字をとり、TAD と略称しています。

〒930-0806 富山県富山市木場町3-20(富岩運河環水公園内)

TEL: 076-431-2711 FAX: 076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>



Toyama Prefectural Museum of Art & Design

富山県美術館(TAD) 展覧会スケジュール 2024.4 - 2025.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示室1	第Ⅳ期 - 4/7	コレクション展Ⅰ期 4/11 - 7/15					コレクション展Ⅱ期 7/18 - 11/4		コレクション展Ⅲ期 11/7 - 2/4		コレクション展Ⅳ期 2/6 -	
展示室2	倉俣史朗のデザイン ― 記憶のなかの小宇宙 ―	北日本新聞創刊140周年記念 「エッシャー―不思議のヒミツ」		民藝―MINGEI― 美は暮らしのなかにある				第14回 世界ポスタートリエンナーレ トヤマ2024		没後20年東野芳明と戦後美術		
展示室3												
展示室4												
	- 4/7	4/27 - 6/30		7/13 - 9/23			10/12 - 12/15		1/25 - 4/6			
展示室5	第Ⅳ期 - 4/23	デザイン・ コレクション展Ⅰ期 4/25 - 7/15					デザイン・コレクション展Ⅱ期 7/18 - 11/4		デザイン・コレクション展Ⅲ期 11/7 - 2/11		デザイン・ コレクション展Ⅳ期 2/13 -	
展示室6	第Ⅳ期 - 4/23	瀧口修造コレクションⅠ期 4/25 - 7/15					瀧口修造コレクションⅡ期 7/18 - 11/4		瀧口修造コレクションⅢ期 11/7 - 2/11		瀧口修造 コレクションⅣ期 2/13 -	
	第Ⅳ期 - 4/23	シモン・ゴールドベルク& 山根美代子 コレクションⅠ期 4/25 - 7/15					シモン・ゴールドベルク& 山根美代子 コレクションⅡ期 7/18 - 11/4		シモン・ゴールドベルク& 山根美代子 コレクションⅢ期 11/7 - 2/11		シモン・ゴールドベルク& 山根美代子 コレクションⅣ期 2/13 -	
		企画展		コレクション展								
※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。												
							まるとTADこども美術館					

2階 展示室1

約3か月に1度の展示替えて、自慢のコレクションを多彩に展示。常に新鮮な出会いが楽しめます。

3階 展示室5 デザイン・コレクション

ポスターと椅子を中心としたデザインコレクション。国内外のすぐれたポスターとともに、デザイン史に残る名作椅子が並びます。ポスターは、タッチパネルで好きな作品を大きく表示できる大型ディスプレイでも自由に楽しめます。

3階 展示室6

瀧口修造コレクション

シモン・ゴールドベルク&山根美代子コレクション

富山県出身の詩人・美術評論家の瀧口修造と、世界的な音楽家シモン・ゴールドベルク&山根美代子のコレクション。瀧口の部屋には、ミロやデュシャンなど親交を結んだ作家たちから贈られた作品などが並びます。また、富山を愛し晩年を過ごした天才ヴァイオリニスト、ゴールドベルクが生前に集めた20世紀の優品を展示します。



撮影：大辻清司《書斎の瀧口修造夫妻》1975年



ヘリット・トマス・リートフェルト（製造1990年代）
《レッド・アンド・ブルー》1918 - 23年



アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック
《マンジの肖像》1901年



パブロ・ピカソ《座る女》1960年
©2024-Succession Pablo Picasso - BCF (JAPAN)

北日本新聞創刊140周年記念

「エッシャー不思議のヒミツ」

2024年4月27日(土) – 6月30日(日)

一 般 (団体)：¥1,500 (¥1,200)
大学生 (団体)：¥1,000 (¥800)
一 般 前 売 り：¥1,200
※()内は20名以上の団体料金

エッシャー(正式名 マウリッツ・コルネリス・エッシャー、1898–1972年、オランダ生まれ)は、みる人に驚きと発見を与え、数学者やアーティストから子どもたちにまで世界的に人気の高い版画家です。ある形で平面をくまなく覆い尽くす「テセレーション(敷き詰め)」、一つの形が次第に別の形へと変形する「メタモルフォーゼ(変容)」など、人間の視覚や錯覚を利用した緻密で幾何学的な画風が特徴です。本展は、オランダのエッシャー財団の全面的協力のもと、初期のイタリアの風景から「だまし絵」的な代表作まで、約160点を一堂にご紹介します。また、作品を模したセットなどを使って、エッシャーの作品を体感する場を設けます。デジタル社会を生きる私たちが、版画という手法で想像力豊かな世界を生み出した、エッシャーの魅力を楽しめる展覧会です。



M.C.エッシャー《昼と夜》1938年制作 Day and Night, 1938
木版 Woodcut, 39.1x67.7cm Maurits Collection, Italy All M.C. Escher works
© 2023 The M.C. Escher Company, Baarn, The Netherlands. All rights reserved mcescher.com

民藝 MINGEI

— 美は暮らしのなかにある —

2024年7月13日(土) – 9月23日(月・祝)

一 般：¥1,300 (¥1,000)
大 学 生：¥650 (¥500)
一般前売り：¥1,000
※()内は20名以上の団体料金

約100年前に思想家・柳宗悦は、市井の人々の暮らしで用いられてきた手仕事の品に美を見出し、民衆的工藝＝「民藝」と呼びました。本展では、そうした民藝の品々約150件を展示致します。「第I章：1941 生活展」では、柳自ら1941年に日本民藝館において企画した「生活展」の再現を試みます。また、「第II章：暮らしのなかの民藝」では、市井の人々によって作られ、用いられてきた品々を、衣・食・住という切り口からひも解きます。「第III章：ひろがる民藝」では、富山県、八尾の和紙など国内5つの産地の“いま”を紹介する展示や、現在の民藝ブームをけん引するセレクトショップ「MOGI Folk Art」のディレクター、テリー・エリスと北村恵子が世界各地で見つけた品々と現代の暮らしを融合した「これからの民藝スタイル」をインсталレーションとして提案します。柳が説いた生活の中の美、民藝とは何か、そのひろがりと今、そしてこれからの姿を展望する展覧会です。



[左から] 角酒瓶 小谷眞三 倉敷(岡山) 1979年 /
酒瓶 小谷眞三 倉敷(岡山) 1985年頃 / 栓付瓶 メキシコ 20世紀中頃

すべて日本民藝館蔵 photo: Yuki Ogawa

第14回

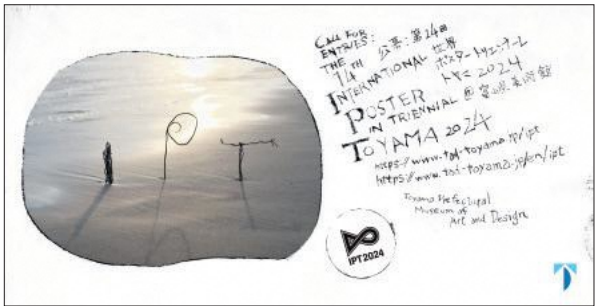
世界ポスタートリエンナーレトヤマ2024

2024年10月12日(土) – 12月15日(日)

一 般：¥1,300 (¥1,000)
大 学 生：¥650 (¥500)
一般前売り：¥1,000
※()内は20名以上の団体料金



この展覧会は、世界のポスターデザインの現況と成果を概観するため、作品を国際的に公募・選抜して展示公開するポスター展です。「IPT」の愛称で知られる本展は、旧・近代美術館時代の1985年に始まった第1回公募から、トリエンナーレ(3年に一度開催)としての歴史を重ね、IPT2024で第14回目を迎えます。毎回、国内・国外より優れたポスター作品が寄せられ、世界屈指のポスター展として注目を集めています。今回の第14回展においても、紙媒体でのポスター作品の募集とともに、学生であれば年齢を問わず応募可能なデジタルデータ応募「U30+ Student部門」を設けています。このIPT2024に向けて世界から富山に集まった応募作品に対し、国際的に活躍する国内外のグラフィックデザイナー等による審査員をおこないます。会場では審査を通過した入選・受賞作品と実行委員・審査員による招待出品が一堂に会します。ポスターの新しい魅力が発見されつつあるなか、1枚の紙にのせた言葉を超えたビジュアルのメッセージが世界から富山に集まる本展で、最新のポスター、グラフィックデザインの世界にふれていただきます。



世界ポスタートリエンナーレトヤマ2024公募告知ビジュアル デザイン：永井裕明

没後20年 東野芳明と戦後美術

2025年1月25日(土) – 2025年4月6日(日)

料金未定
※決定次第、当館ホームページにてお知らせします。

東野芳明(とうの・よしあき、1930-2005)は戦後に活躍した美術評論家です。1954年に東京大学を卒業した東野は、同年、評論「パウル・クレエ試論」が雑誌『美術批評』の新人評論募集で一席となり、美術評論家として歩み始めました。1950年代末に渡欧・渡米した東野は、そこで目にした欧米の「現代美術」をいち早く国内に紹介することに努め、60年代以降は、「反芸術」と称した同世代の芸術家たちの伴走者として、彼らの活動を後押ししました。東野は、創作現場での体験を交えた、臨場感に満ちた批評を執筆するのみならず、展覧会の企画にも携わり、国内外の作り手たちと多くの時間を共有しました。後年は、水をめぐる思索を深め、趣味の素潜りによる写真作品も制作しています。東野の没後20年を記念して開催するこの展覧会では、当館のコレクション・資料を中心に、東野の美術評論家としての歩みを紹介します。東野は、当館の前身である富山県立近代美術館の運営委員を務めるなど、特に関りの深い評論家であり、コレクション形成にも大きな影響を与えました。当館は東野が言及した芸術家の作品のみならず、東野旧蔵の資料(書籍、作品等)も収蔵しています。展覧会を通して、東野の批評と彼が見詰めた美術を振り返ります。



ルネ・ロラン[左から瀬口修造、東野芳明、アンドレ・ブルトン]1958年(プリント1993年)、当館蔵

令和５年度新収蔵美術品について

令和５年度は、美術品の購入と受贈により 15 点作品を取得しました。これらの作品は、コレクション展や、当館で開催する各種企画展で活用してまいります。

1. 美術品の購入（9 点）

	作家名	生没年	作品名
1	ごうだ さわこ 合田 佐和子	1940-2016	フランケンシュタイン博士のモンスター
2	〃	〃	ベロニカ・レイク
3	〃	〃	Twin
4	はかまた きょうたろう 袴田 京太郎	1963-	本保裸婦像－複製
5	よしざわ みか 吉澤 美香	1959-	にー 2 4
6	あさい ゆうすけ 浅井 裕介	1981-	土の星の人
7	〃	〃	生きている自然
8	かたやま まり 片山 真理	1987-	just one of those things #002
9	はやし ゆうき 林 勇気	1976-	another world -vanishing point

上記、No. 6～9 は、富山県内在住の個人の方からのご寄附を活用し作品購入しました。寄附者のご意向を踏まえて、日本の若手・中堅作家（30 代～50 代）の作品を購入しています。

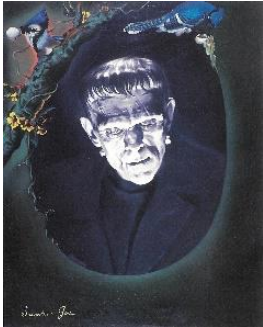
2. 美術品の受贈（6 点）

	作家名	生没年	作品名	寄附者
1	あきおか みほ 秋岡 美帆	1952 - 2018	ゆれるかげー 2 1992. 12. 25	（非公表）
2	〃	〃	光の間 02-5-29-2	〃
3	おおたけ しんろう 大竹 伸朗	1955 -	《男》のスケッチ 1	大竹 伸朗氏
4	〃	〃	《男》のスケッチ 2	〃
5	よしおか けんじ 吉岡 堅二	1906 - 1990	巢立ち	高野 恵子氏
6	〃	〃	烏骨鶏	〃

※各作品の詳細は、別紙のとおり

(別紙)

1. 美術品の購入

1		合田 佐和子 (1940ー2016、高知県生まれ) 《フランケンシュタイン博士のモンスター》 1974 (S49) 年 絵画 サイズ : H104.0×W81.0 cm 材質・技法 : キャンバス・油絵具 * 収蔵作家 (瀧口コレクション)
2		合田 佐和子 (1940ー2016、高知県生まれ) 《ベロニカ・レイク》 1978 (S53) 年 絵画 サイズ : H117.0×W91.6 cm 材質・技法 : キャンバス・油絵具 * 収蔵作家 (瀧口コレクション)
3		合田 佐和子 (1940ー2016、高知県生まれ) 《Twin》 1976 (S51) 年 立体 サイズ : H15.6×W22.0×D13.0 cm 材質・技法 : 真鍮 * 収蔵作家 (瀧口コレクション)
4		袴田 京太朗 (1963 年、静岡県生まれ) 《本保裸婦像一複製》 2024 (R6) 年 (制作委託作品) 立体 サイズ : H185.0 × W53.0 × D53.0 cm 材質・技法 : アクリル * 2022 (R4) TAD ギャラリー招待作家

5		吉澤 美香（1959、東京都生まれ） 《にー24》 1991 (H3) 年 絵画 サイズ：H201.8×W301.5 cm 材質・技法：ABS 樹脂・シルクスクリーンインク * 1984 (S59)、1988 (S63) 企画展招待作家
6		浅井 裕介（1981 年、東京都生まれ） 《土の星の人》 2016 (H28) 年 絵画 サイズ：H500×W420 cm 材質・技法：帆布・土、膠、アクリルレジ ン、水 * 2016 (H28) 招待制作、2017 (H29) 展示
7		浅井 裕介（1981 年、東京都生まれ） 《生きている自然》 2016 (H28) 年 絵画 サイズ：H500×W420 cm 材質・技法：帆布・土、膠、アクリルレジ ン、水 * 2016 (H28) 招待制作、2017 (H29) 展示
8		片山 真理（1987 年、埼玉県生まれ） 《just one of those things #002》 2021 (R3) 年 写真 サイズ：H120×W160 cm 材質・技法：C プリント、オリジナルデコ レーション額
9		林 勇気（1976 年、京都府生まれ） 《another world—vanishing point》 2022 (R4) 年 映像インスタレーション サイズ：投影サイズに合わせ変更可能 材質・技法：4 K ビデオ 6 分 30 秒、音楽 * 2022 (R4) 年企画展招待・出品作

- ・ 合田 佐和子（ごうだ さわこ）の絵画作品の特徴の一つは、映画雑誌のグラビヤやブロマイドをモチーフとしている点である。今回購入の油彩画 2 点は、映画「フランケンシュタイン」（1931）のステル写真に基づくものと、1942 年のアメリカ映画『拳銃貸します』出演のベロニカ・レイクの写真が元になっているが、特徴的な色調で独特な世界観を表現している。当館ですでに収蔵している作品は「瀧口コレクション」に分類される小品のオブジェ類である。今回の油彩画は、合田佐和子の画業を紹介するのにふさわしい作品である。

また、立体作品の《Twin》は、合田の依頼により彫刻家・三木富雄（1937-1978）が鑄造したものである。合田は、1970 年代後半から 80 年代前半にかけて、油彩画に代わる表現メディアを模索していたが、このような鑄造による作品は類例もなく珍しい。合田作品の多様性を示す作品として貴重である。

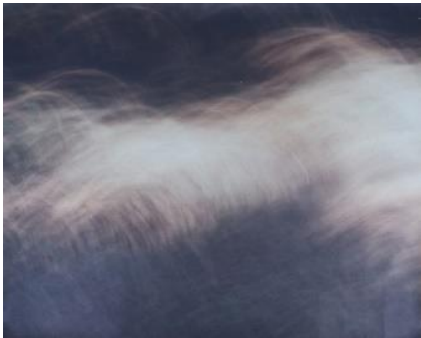
- ・ 袴田 京太郎（はかまた きょうたろう）は、1980 年代より、近代「彫刻」を問い直し、現代における「彫刻」の可能性を追求してきた。令和 4 年度「アーティスト@TAD」招聘作家として、当館が所蔵する本保義太郎作《裸婦像》（1896 年頃）を拡大複製する公開制作を実施した。本保は明治の初め高岡の仏師の家系に生まれ、近代「彫刻」と苦闘した最初期の日本人の一人で、渡仏しロダンに面会するも若くして客死したため残る作品は少ない。公開制作では、本保作品を 3 D 計測し、そのデータをもとに発泡スチロールとスタイロフォーム積層により複製、像高約 4 m の作品が完成した。これを契機に、恒久的素材であり、作家の代表的手法であるアクリル板積層で作品化したものを収蔵し、本保が生きた「近代」を再考できる彫刻として収蔵し活用したい。

- ・ 吉澤 美香（よしざわ みか）は、1980 年代初頭の日本の絵画表現で注目を集めて以降、制作・発表を継続している作家である。本作は、キャンバスではなく、空間との一体化を意識したという樹脂板にシルクスクリーン印刷用のインクで描くという、当時の吉澤の絵画表現の特性がよく現れているものである。また、吉澤の作品が注目を集め始めた 80 年代後半に近い時代の作品であり、表現としては 80 年代の絵画の一傾向としてのグラフィティ的な要素を汲みつつ、作家本人が絵画制作において目指した「描く行為そのものの身体性」がよく現れており、作家の代表作の一つである。富山県立近代美術館の 80 年代の展覧会で、当館とゆかりの深い美術評論家、東野芳明の推薦で 2 回招待出品をしている。20 世紀美術を紹介してきた当館のあゆみをたどることもできる作品である。

- ・ 浅井裕介（あさい ゆうすけ）の 2 作品は、当館の前身の富山県立近代美術館の企画により、2 週間富山に滞在し、エントランスにて、地元のボランティアと一緒に公開制作をした作品。完成した作品は、クロージング展「MOVING!」（2016 年）、当館の開館記念展「LIFE 展」（2017 年）と、新旧ふたつの美術館で展示され、人気を博した。当館にとって、記念すべき作品である。近代美術館と富山県美術館（当時、工事中）の土、呉羽山の土、富山市内の土などの他、これまで泥絵制作を行ってきた青森、熊本、インド、テキサス州ヒューストンの土も使用されており、滞在場所の土を用い、独特の世界観で、場所にあわせた絵画表現をおこなう、浅井裕介氏の制作技法、特徴が発揮されている代表作といえる。

- ・ 片山 真理（かたやま まり）は国内外で活躍する写真家である。本作は、フィルムプリント写真で撮影したセルフポートレイトを基盤に、手などの彼女の身体の一部や、オブジェ制作のときに利用する作家が好む布や貝殻などをパーツ化して、デジタル画面で構成したアナログとデジタルが融合した作品である。作者の姿には、ハイヒールを履いて闊歩することへの強いこだわりをもつ作家の挑戦や意思の強さがあふれている。その姿は、カッコよさなど、見る者にとってそれぞれの「ハイヒール」を想起させるものであり、作者の強い意志を共有できる作品である。
- ・ 林 勇気（はやし ゆうき）の代表作のひとつ《another world》は、無数の切り抜かれたカラフルな画像（イメージ）が、うねるような音とともに、まるで宇宙空間のような無限の奥行の中を漂っていく。その様子は、私たちが急速に、日々膨大な画像（情報）が蓄積され、共有され、消費されていく不可視のデジタル世界、「もうひとつの世界」に取り囲まれていることをすぐれて体感的に想起させる。ときに床置きされるプロジェクターから投影される映像は、鑑賞者自体も取り込み、映像が「光（情報）にすぎない」ことも明示する。本作は、当館で 2022 年度に開催した自主企画展「デザインスコープ展」のために制作された「another world」シリーズの新作で、展示環境に合わせ柔軟に展示可能であり、さまざまな展示活用が見込める。

2. 美術品の受贈

1		秋岡 美帆（1952-2018、兵庫県生まれ） 《ゆれるかげー 2 1992. 12. 25》 1992 (H4) 年 版画 材質・技法：麻紙・NECO プリント サイズ：H218.0×W275.0cm * 日本国際美術展 富山県立近代美術館賞 ['84]作家 * 2001 (H13) 年企画展招待、収蔵作家
2		秋岡 美帆（1952-2018、兵庫県生まれ） 《光の間 02-5-29-2》 2002 (H14) 年 版画 材質・技法：麻紙・NECO プリント サイズ：H220.0×W276.0 cm * 日本国際美術展 富山県立近代美術館賞 ['84]作家 * 2001 (H13) 年企画展招待、収蔵作家
3		大竹 伸朗（1955-、東京都生まれ） 《《男》のスケッチ 1》 1975 (S50) 年 絵画 材質・技法：紙・鉛筆、インク サイズ：H35.8×W25.8cm * 2023 (R5) 個展開催、収蔵作家
4		大竹 伸朗（1955-、東京都生まれ） 《《男》のスケッチ 2》 1975 (S50) 年 絵画 材質・技法：紙・鉛筆 サイズ：H25.7×W35.8 cm * 2023 (R5) 年個展開催、収蔵作家

5		吉岡 堅二（1906-1990、東京市生まれ） 《巣立》 1949 (S24) 年 絵画 サイズ：H73.3×W67.2 cm 材質・技法：和紙・岩絵具 * 収蔵作家
6		吉岡 堅二（1906-1990、東京市生まれ） 《烏骨鶏》 1957 (S32) 年 絵画 サイズ：H59.3×W42.7 cm 材質・技法：和紙・岩絵具 * 収蔵作家

- ・ 秋岡 美帆（あきおか みほ）は、風、光、樹々が見せる一瞬の表情をカメラで捉え、それを麻紙やキャンバスにNEC0プリント技法で拡大した大作を発表し、現代日本を代表する版画家の一人である。当館では、平成13年開催の「トライ・アート2002 ミライズム空間」展に招待し、大々的な作品展示も行ったゆかりもある。また、初期の《See (Blow the wind)》と1998年の《光の間' 98-12-16》の2点を既に収蔵しているので、今回の光の流れやゆらぎをとらえた特徴的な大作2点を加えて収蔵することで、秋岡の活動を俯瞰できるようになる。
- ・ 大竹 伸朗（おおたけ しんろう）は、絵画や版画素描や彫刻のみならず、インスタレーション、絵本、音楽、エッセイなど様々な表現方法を手掛け、1980年代以降トップランナーであり続けている。本作2点は、大竹が19歳から20歳にかけて開始した《男》（1974-75）の制作にあたり、細部の構造や形態を検討するために描いたスケッチである。2023年開催の個展にも出品された、《男》が当館に収蔵されていることもあり、作家自身により寄贈された大変貴重なものである。大竹伸朗の初期作品の調査研究に役立つとともに、作家の思考がよみとれるデッサンとして活用したい。
- ・ 吉岡 堅二（よしおか けんじ）は富山県立近代美術館で1983年に開催の「富山を描く-100人100景」展のために、委嘱制作をした《雷鳥》を出品し、同作は当館の収蔵作品となった。令和3年度には、吉岡の代表作である第26回ヴェネチア・ビエンナーレ出品作の《水禽屏風》（1951年）と第19回新制作協会展出品作の《水鳥屏風》（1955年）の2点を収蔵した。現在、屏風2点と絵画1点の計3点が収蔵されているため、今回の《巣立ち》と《烏骨鶏》を収蔵することで、コレクションの厚みが増し、日本画の革新を追求し続けた吉岡の歩みをたどることができる。